



秋のお彼岸

いくつもの台風に怯えつつも、今年もどうにか夏を乗り越えることができました。台所に立つのも嫌だった心境から一変、手の込んだ料理でも作りたい気分になってきました。皆様、お変わりありませんか。



心地よい秋風が夏の疲れを癒してくれる今月は仏教徒にとって修行期間であるお彼岸を迎えます。今年9月23日(日)の秋分の日を中日とし、前後7日間9月20日～26日がお彼岸となります。

お彼岸は、私達仏教徒にとって、「日頃忙しくてなかなか仏道精進できないものの、せめてこの一週間は仏様の教えを守り、心の修行をしましょう」という期間です。この7日間、自分なりに仏様の教えに沿った生活を送り善いおこないを積むことでご先祖様への功德とします。



さて、日常の中でできる修行には布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧の6つがあり、今まで持戒・忍辱・精進・禅定をご紹介してきましたので、今回は「智慧(ちえ)」についてご紹介しましょう。

この夏もジャンボ宝くじを買って、一喜一憂された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。一度に何億円もの大金を手に入れば幸せな人生が送れるのではと夢を見ます。ある資産家いわく「今幸せじゃない人は、何億 手に入れても幸せにはなれない」

人は多くの困難や不満を抱えています。同時に、その困難が除かれたら幸福になれると誤解しています。ところが実際は第一の困難が除かれても第二の困難が待ち受けており不満の種が無くなることはありません。

釈尊の智慧は、今ある困難をそのままに、幸福になっていく力なのです。

特異な俳人として生涯を送った瓢水という俳人がいました。江戸末期、富裕な回船問屋の長子として生まれた彼は、何不自由なく育ちます。俳諧師の仲間に入り、名前も知られるようになります。しかし明治に入って陸蒸気が通ります。家業の運送業もそれにとって替われ、ついに倒産の憂き目をみます。財宝、田畑、山林、ある物すべてを売り尽くします。ついに家も売り、蔵まで売りつくします。しかし彼は悠々閑々、別に臆するところがありません。

「蔵売って 日当たりの良き ボタンかな」
自ら詠じて借家に移ります。

「所得無きを以ての故に」という部分が『般若心経』にあります。お金も、地位も、名誉も家族もない。しかも、何も無いというその心も残らない。何もかも捨てる中で智慧はついてくると言われます。じゃあ智慧によって何を得たかと言えば、得たものは何も無い。本来のきれいな心で どんな時にもっこり笑って生きていく力(智慧)が、まぎれもない自分のものになるのです。

大智寺だより

平成30年長月
Vol.99

発行所
大智寺

岐阜市山県北野
668-1

電話: 058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichi-ji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地の水小屋にてご自由にお取りいただけます。ご活用ください。

8月号発行部数
200部

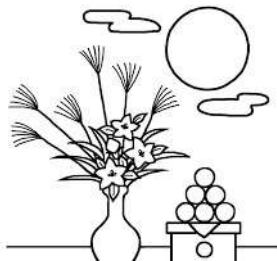
ご愛読
ありがとうございます

岐阜西教区第11部 1ブロック ミニ花園大会



秋風吹く心地よいお彼岸の期間に、
ここ大智寺にてミニ花園大会が開かれます。

この花園大会とは、花園会員の皆様に少しでも仏様の教えに触れていただければとの思いから、近隣のお寺様同士と一緒に企画して各お寺の檀家様をお誘いしているものです。

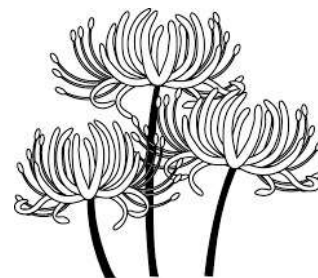


花園会員の方々の先亡供養から始まり、今回は妙心寺派布教師である京都の國清寺ご住職様をお迎えしお話いただきます。
演題は「おかげさまの心 いつでもどこでも仏さま 随所に主となる」皆様とご一緒に、仏様の教えに耳を傾けられればと思います

日時：平成30年9月24日(月) 8:30~10:00 会場 大智寺

三輪藍川地区檀信徒大会

平成29年1月から12月にお亡くなりの方々のご冥福を祈る三輪藍川地区檀信徒大会が開かれます。ここ大智寺は臨済宗ですが、三輪藍川地区には様々な宗派のお寺があります。宗派の壁を越えて近隣のお寺様と一緒に企画し毎年この三輪藍川地区檀信徒大会は開かれています。



今回は岐阜市岩田の智照院ご住職様を講師にお迎えしお話いただきます。
平成29年の一年間にご家族を亡くされた方々とご一緒に、心静かに手を合わせられればと願います。

日時：平成30年9月22日(土) 14時~16時 会場 太郎丸 吉祥寺

～ 他家の法要に出る機会の少ない奥様のため 若い世代のために ～
(実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋)



お寺のこと、仏壇のこと、法要のこと etc わからないこと 質問帳 ③



「 どうしたらいつもきれいな部屋を維持できるんかねえ 」

一念発起して朝から掃除三昧してピカピカにして、
やれやれと思っていたら一週間、二週間たって元の木阿弥・・・
なんてことはどなたも体験したことがあるのではないのでしょうか。

この夏は特に暑かったので、いろいろ手もつかず「涼しくなったらやろう」と見て見ぬふりも？
いつもきれいな部屋で過ごしたいはずなのに、辛いものです。

有名な「ゆでガエル」という話があります。

2匹のカエルを用意して、一匹は熱湯に入れ、もう一匹は水に入れてゆっくり温めていく。
すると、熱湯に入れたカエルは「あっちち」といって跳び出して生き延びるけれど、
ゆっくり温度を上げた方は、いつの間にか茹で上がって死んでしまうというものです。

急激な変化には即座に対応しようとするものの、

ゆっくりとした変化には、段々慣れてしまい対応するタイミングを逃しやすいということです。

想像すると残酷で気持ち悪いからこそ、頭に残る話です。

自分が知らない間にゆでガエルになっていないか、ぶるぶると身震いしつつ自問自答しています(笑)

～ 日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』 ～



お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を 心豊かに

大智寺檀信徒日課經典
31ページより

④7

ちょうるいぎょるい 鳥類魚類に至る迄 いたるまで なさけ 情けをかけて すくう 救うべし

昔、中国の南泉和尚の元にはたくさんの修行僧が集まっています。
ある日、一匹の猫を毘んで修行僧が言い争っています。こんな猫にも仏性があるのかないのか、議論しているようですが、なかなかうちがあきません。そこへ南泉和尚がやってきて「どうだ！この猫の前に一句言ってみろ！でなければ、この猫を切るぞ！」

さてここは禅寺です。仏性が「有る、無い」という対立する相対観念は答えになりません。修行僧達がだまっていたので、とうとう南泉和尚は猫を切ってしまいます。

夕方になって、外出していた一番弟子の趙州和尚が帰ってきました。それで、南泉和尚は屋間の猫の話をしました。すると趙州和尚はだまって履いていた草履を頭のにせて部屋を出ていきます。「ああ、趙州よ、あの場にお前がいればわしは猫を切らずにすんだのに」趙州和尚の後ろ姿を見ながら南泉和尚はつぶやきます。

「鳥類魚類に至る迄 情けをかけて救うべし」

ここの部分は単に動物愛護を呼び掛けているのではなく、この南泉和尚の猫を救うことが求められているのではないのでしょうか。私たちが悩み苦しむのは、すべてを2つに分けて見る分別心があるからです。「生」と「死」、「善」と「悪」、「是」と「非」などの相反する2つの概念の間で右往左往するからです。この苦しみから解放されるには、議論的となっている猫をたたき切ってしまうか、もしくはこの分別心を越えたところに心を持っていくほかありません。草履は足に履くもの、猫は人間に劣る畜生である、そんな分別心を取り払えば、鳥類魚類に至る迄 情けをかけて救うことができるのではないのでしょうか。

今月のつひじゆ

ツクツクボウシが鳴く中、萩の蕾も膨らみ始めました。皆様いかがお過ごしでしょうか。先月は夏の終わりに小学校の夏祭りがあっていました。子ども達のため、地域総出で作り上げているお祭りです。私も屋台で出す焼きそばのキャベツを切るお手伝いをさせていただきました。数人で20個のキャベツを切りました。が用意された包丁が驚くほど切れない（笑）でもみんなで楽しくおしゃべりしているうちに、作業はあっという間に終わりました。

ホルヘ・ブカイの『頑張る木こり』という話をふと思い出します。昔一人の木こりがあり、新しい職場で一生懸命木を切ります。初日はなんと18本。親方は大喜びです。翌日は15本。「きつと疲れているんだ」木こりは、いつもより早く寝ました。翌日「今日こそは！」と意気込みますが、7本。今日はたった1本だけ。「これでも精一杯やっています！」と木こりは叫びます。すると親方は聞きます。「最後に斧を研いだのはいつだ？」それを聞いた木こりは、こう答えました。「私は一生懸命木を切ってたんですよ。斧を研ぐ時間なんて全くありませんよ！」

誰だって一生懸命過ごしています。木こりも精一杯頑張っていました。ただそれが苦しくなる時、悲しくなる時、頑張りか空回りする時、心を研ぐ時間を設けていたか確認が必要なのかもしれません。仏様の教えを聞いて心を研げばまた有意義な一日が始まります。

～ シリーズ いますぐできる精進の味 ～

♪ お寺のぶきっちゃんでも簡単に作れた ヘルシーなお味 ♪

おいしいご飯のおとも 手作りなめたけ

- ① えのき茸 400gの石づきを落とし、適当な大きさに切る。
- ② 鍋に昆布だし100ml、醤油大さじ5、みりん大さじ4、えのき茸を入れて中火にかける。
- ③ 沸騰してきたら弱火にし4～5分煮たら出来上がり。



♪ 月に一度はお寺まいり ♪

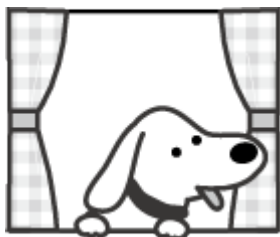
初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

9月23日(日) 一回 500円
(朝8時~9時) (内300円は義援金)
要申込

8月写経会 備忘録

暑い夏もそろそろ終わり、大勢の方々にお集まりいただきお写経しました。今回は落語「のめる」を楽しみました。口癖を言ったら50銭払うという約束で、うまく相手に口癖を言わせてホッとしたところで「のめる」と自分の口癖を言って終わる落語、おもしろかったですね。今回は栗阿彌と八橋で一服しました。



お釈迦様が生きていた頃
あんな人、こんな人

第十八話 「ねたみ多き人 コーカーリカさん」



お釈迦様の教団は、初め5人の弟子から始まりましたが瞬く間に大教団となりました。

教団発展の大きな力になった2人の弟子が舍利弗さんと目連さんです。でも悲しいかな、いつの世にも優秀な人をねたみ、嫉妬する人が必ずいます。お釈迦様は殊の外、人と自分を比べてねたむことを戒められていました。

インドの6月は雨期です。雨期の間、お釈迦様はしばしば祇園精舎に泊られました。そんな精舎の香堂にひとりの修行僧が尋ねてきます。その修行僧の名はコーカーリカさん。

彼は香堂に入るやお釈迦様の足元にひざまずいて告げ口を始めました。「お釈迦様、舍利弗さんと目連さんは悪い奴です。全身が悪い欲望に包まれていますから、ご用心ください」それを静かに聞いておられたお釈迦様は「コーカーリカさん、そんなふうにするものではありませんよ、自分の心を清らかにして信仰心を起こしてください」その後もコーカーリカさんは三度も同じことをお釈迦様に告げ口し、お釈迦様はそのたびに同じことを答えました。

さて、しばらくして香堂を立ち去るとコーカーリカさんの全身にブツブツができました。それがだんだん大きくなり、やがて破裂して血膿が吹き出してコーカーリカさんは死んでしまいました。お釈迦様は嫉妬心をくれぐれも起こさないよう弟子たちに戒められました

ご自宅で お寺で 市営斎場で 営む
家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めてまずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

1区画：38万円～
(墓石代金含む)

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから「完全個別永代供養墓」といいます。詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、ご予約の上 ご来山ください。